



Information

2018.3

Vol. 79

日本気象協会の最新事業のご紹介

Contents1

2018年 春の花粉飛散予測(第4報) 花粉シーズンスタート!
神奈川や西日本の一部でスギ花粉の飛散開始

Contents2

「tenki.jp」で2018年花粉情報をスタート
～新たに全国に拡大した「花粉予測メッシュ」の提供を開始!～

Contents3

国土交通省国土技術政策総合研究所が推進する自動運転支援の共同研究に参加
～「次世代の協調ITSの実用化に向けた技術開発に関する共同研究」～

Contents4

需要予測の導入による経済効果を約1,800億円と試算
～気温変化の売上げ影響度 夏はコーヒー、冬は日本茶がトップ～

Contents5

国際スマートグリッドEXPOにて、
「電力ビジネスにおける気象ビッグデータの活用」と題した特別講演を行いました



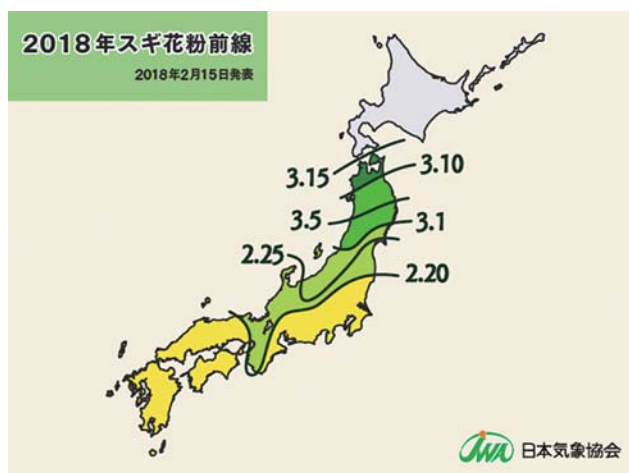
奈良県大和高田市 高田川畔の千本桜

2018年 春の花粉飛散予測(第4報) 花粉シーズンスタート！ 神奈川や西日本の一部でスギ花粉の飛散開始

日本気象協会は、2018年2月15日(木)に2018年春の花粉(スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ)飛散予測(第4報)を発表しました。また、詳細な情報を、「2018年春の花粉総飛散量予測資料」として販売開始しました。

2018年シーズンの飛散開始時期

1月後半から2月上旬にかけて、冬型の気圧配置となる日が多く、1月下旬には数年に一度の強い寒気が流れ込み、



全国的に記録的な低温になりました。また日本海側では日本海寒帯気団収束帯(JPCZ)による大雪に見舞われました。1月22日には本州南岸を通過した低気圧の影響で、西日本から東日本の太平洋側で大雪になったところがありました。2月上旬にも再び強い寒気が流れ込み、西日本で気温が平年を大幅に下回り、北陸地方では数十年ぶり的大雪となりました。

この影響で、多くの地点では花粉の飛散開始が遅れています。しかし、神奈川県など関東の一部では大雪の翌日にあたる1月23日と24日に南寄りの風が強かったため、「飛散開始」が確認されました。西日本などでも飛散開始となったところがあり、花粉シーズンがスタートしています。そのほかの地点でも、「飛散開始」の定義に当てはまらないものわずかな飛散が確認されています。



このサービス・商品に関する詳細につきましては、下記、ホームページまで。

<https://www.jwa.or.jp/news/2018/02/post-000980.html>

「tenki.jp」で2018年花粉情報をスタート ～新たに全国に拡大した「花粉予測メッシュ」の提供を開始！～

日本気象協会は、2018年1月22日(月)に、天気予報専門メディア「tenki.jp(てんきじゃーぷー)」のwebサイト(パソコン・スマートフォン)にて、2018年の花粉情報を公開しました。さらに、前シーズンまで関東地方のみを対象に予測していた「花粉予測メッシュ」を、対象地域を全国に拡大して提供を開始しました。

「tenki.jp」では毎年、春の花粉飛散シーズンにあわせて「花粉情報」を公開し、花粉飛散シーズンの対策に役立つさまざまな情報を提供しています。

2018年の提供開始にあわせて、これまで関東地方のみを対象としていた「花粉予測メッシュ」の予測対象エリアを全国(沖縄を含む島しょ部とスギのない北海道を除く)に拡大しました。エリアを拡大した「花粉予測メッシュ」では、3時間ごとの詳細な花粉の飛散状況を最長2日先まで、1kmメッシュ(1km四方単位)で確認することができます。「花粉予測メッシュ」は、スギ花粉のみを予測の対象としています。



「花粉予測メッシュ」画面イメージ

日本気象協会は、東北から近畿・四国地方までの広い地域で、前シーズンよりも花粉の飛散量が上回ると予想しています(2018年1月16日現在)。これまでよりも詳しくなった「花粉情報」を、花粉症対策にご活用ください。



このサービス・商品に関する詳細につきましては、下記、ホームページまで。

<http://www.jwa.or.jp/news/2018/01/post-000974.html>

Contents3

2018.01.24発表

国土交通省国土技術政策総合研究所が推進する自動運転支援の共同研究に参加～「次世代の協調ITSの実用化に向けた技術開発に関する共同研究」～

日本気象協会は自動車の自動運転支援を目的として、2018年1月から国土交通省国土技術政策総合研究所(以下「国総研」)ならびに民間企業29者(計32団体)と共同研究を開始しました。

【共同研究名称】

次世代の協調ITSの実用化に向けた技術開発に関する共同研究

【共同研究実施期間】

2018年1月から2020年3月まで

【共同研究項目】

- (1)合流部支援サービスに関する検討
- (2)先読み情報提供サービスに関する検討
- (3)車両情報を活用した道路管理高度化に関する検討

日本気象協会は「気象情報を活用した災害防止や減災」の実現を目指し、これまでプローブデータ(注)などのビッグデータと気象情報を組み合わせた新しい情報提供の在り方を、自動車メーカーとともに検討してきました。今回の共

同研究を通じ、日本気象協会は自動運転支援のために収集／提供する情報内容の具体化、情報収集／提供フォーマットの検討、実験システムの構築と実証実験、技術仕様書の検討などを実施していきます。

(注)プローブデータとは…Global Positioning System(GPS、全地球測位システム)を搭載した自動車から得られる移動軌跡情報。緯度経度、車両ID、時刻などの情報であり、カーナビゲーションや交通情報などで活用されています。



図-1 次世代型協調ITSのイメージ 出展「国総研資料」

このサービスに関する詳細につきましては、下記、ホームページまで。
<https://www.jwa.or.jp/news/2018/01/post-000973.html>

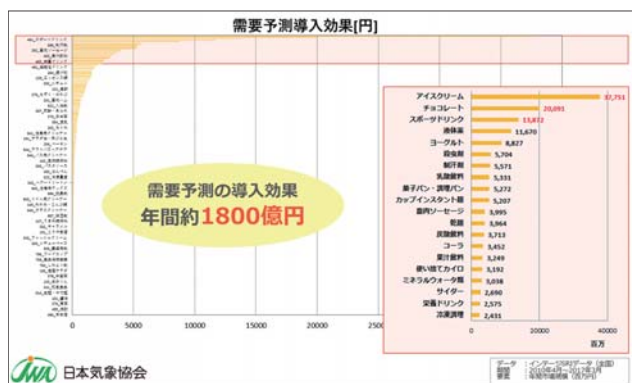
Contents4

2017.11.29発表

需要予測の導入による経済効果を約1,800億円と試算～気温変化の売上げ影響度 夏はコーヒー、冬は日本茶がトップ～

日本気象協会は、気象情報をもとにした商品需要予測情報の提供・コンサルティングサービス「商品需要予測事業」による経済効果を、およそ1,800億円と試算しました。

また、200品目以上の商品の気象感応度を調査し、商品需要予測の向上により、販売実績が伸びることが予想される商材を算出しましたのでお知らせします。



気象予測の導入による経済効果試算:およそ1,800億円

日本気象協会は株式会社インテージが保有する「SRIデータ(全国小売店パネル調査データ)」の全295品目の商品から、およそ70%にあたる203品目のSRIデータに注目し、気象感応度の調査と需要予測を行いました。その結果をもとに「需要予測の導入による経済効果」を、およそ1,800億円と試算しました。

気象感応度が高く、かつ、市場の売上げが高い商品が上位になっています。上位の商品カテゴリほど、製造会社が必要予測をもとに生産調整することで、作りすぎによる「廃棄ロス」や売り切れによる「機会ロス」を削減でき、経済効果が大きいことを示しています。

このサービス・商品に関する詳細につきましては、下記、ホームページまで。
<https://www.jwa.or.jp/news/2017/11/post-000952.html>

国際スマートグリッドEXPOにて、 「電力ビジネスにおける気象ビッグデータの活用」と題した特別講演を行いました

日本気象協会は、2018年3月2日(金)に東京ビッグサイトで開催された世界最大級のエネルギー総合展である「国際スマートグリッドEXPO」にて「電力ビジネスにおける気象ビッグデータの活用」と題した特別講演を行いました。

当日は、エネルギー分野へのAI・IoT導入事例(SG-S3)セッションの中で「電力ビジネスにおける気象ビッグデータの活用」の題目で日本気象協会 事業本部 環境・エネルギー事業部長 小玉 亮氏が講演し、気象とエネルギーの関係を解説し、エネルギー分野で気象ビッグデータとIoTで



集積される家電、自動車、社会の様々なデータをAIで解くことにより、大きな社会的変革を起こせる可能性があることを説明しました。

日本気象協会では、社会の様々な分野での気象予測の高度利用を通して、次世代の超スマート社会の実現を目指しています。



このサービス・商品に関する詳細につきましては、
下記、ホームページまで。

<http://www.jwa.or.jp/news/2018/02/post-000978.html>

季節のことは(春)

日本気象協会は、平成23年(2011年)2月より、現代の季節感にあう「新しい季節のことは」を提案するための取り組みを行ってまいりました。

平成25年(2013年)の春、「季節のことは36選」を選定しました。

「季節のことは36選」はホームページ「暦の上では」やJWAカレンダーなどで紹介しています。

3月／ひな祭り、なごり雪、おぼろ月

4月／入学式、花吹雪、春眠

5月／風薫る、鯉のぼり、卯の花

「暦の上では」ホームページ
<http://24setuki.com>

トピックス

2018.02.22発表

「tenki.jp登山天気」で高尾山、塔ノ岳など人気の山を新たに追加

日本気象協会は、2018年2月22日(木)から登山者向け有償スマートフォンアプリ「tenki.jp登山天気」に高尾山や丹沢山系塔ノ岳を含む人気の山を新たに10山追加掲載しました。追加により、計308山の情報が公開されました。

「tenki.jp登山天気」は、日本三百名山の山を対象に、麓(ふもと)から山頂までの登山ルート沿いの天気予報や雷危険度などをひと目で確認できる、登山者のためのアプリとして2017年4月にリリースしました。今後はさらに対象を4月中に40山増やしていく予定です。



一般財団法人 日本気象協会



<http://www.jwa.or.jp>
<http://www.tenki.jp>

本社 〒170-6055 東京都豊島区東池袋3丁目1番1号サンシャイン60 (55階)
北海道支社 〒064-8555 札幌市中央区北4条西23丁目1番18号
東北支社 〒982-0841 仙台市太白区向山4丁目20番14号
中部支社 〒462-0042 名古屋市中区水草町1丁目21番5号
関西支社 〒542-0081 大阪市中央区南船場2丁目3番2号南船場ハートビル (15階)
九州支社 〒814-0002 福岡市早良区西新一丁目10番27号西新プライムビル (6階)

電話 (03) 5958-8111 FAX (03) 5958-8113
電話 (011) 622-2230 FAX (011) 640-2383
電話 (022) 216-4181 FAX (022) 216-4188
電話 (052) 912-1111 FAX (052) 911-0117
電話 (06) 6266-8420 FAX (06) 6266-8430
電話 (092) 833-8721 FAX (092) 833-8722

